

COP15 視察レポート(1) 報告編

開発システム工学科 4 年
阿部直也研究室
町田和俊

視察期間：2009 年 12 月 9 日～13 日

視察場所：デンマーク、コペンハーゲン（Bella Center）

目的：京都議定書の約束期間の後の国際的な気候変動の枠組みが決められることとなっている、気候変動枠組条約（UNFCCC）の第 15 回締約国会議（COP15）の会場等を視察し、気候変動の国際交渉の最前線で何が行われているのかを自分の目で確かめ、環境政策や環境経済、開発政策等を研究する意義を見つめ直すこと。

視察概要：2009 年 1 月～8 月までインターンしていた、環境 NGO の「気候ネットワーク」の訪問団に帯同して、主に NGO が国際交渉でどのような役割を果たしているのかを視察した。3 日間、締約国会議（COP）／議定書締約国会合（CMP）やサブレベルの会議、様々な環境団体・研究機関の行うサイドイベントを見学したほか、数万人が参加したデモ行進、にも参加した。また、NGO の活動の手伝いも若干行った。

感想の概要：世界中の政府関係者、市民などが集まり、各国・グループの利害関係を確保しつつ何とかして地球益を目指すという厳しい交渉を間近でみることができ、国際交渉の難しさと同時に、常に変わる情勢や、小国が果たす役割についてなど報道だけでは伝わらない要素まで見られて良かった。また自らの研究のリフレッシュとモチベーションアップにもなったと感じる。

見学した主なサイドイベント：

- ・ 国立環境研（NIES）、地球環境戦略研究機関（IGES）と全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）による「Low Carbon Asia: Visions and Actions」

http://www.iges.or.jp/jp/news/cop15/low_carbon.html

http://www.iges.or.jp/en/news/cop15/low_carbon.html

- ・ ブータン政府と JICA による「Expanding Gross National Happiness through CDM project in Kingdom of Bhutan」

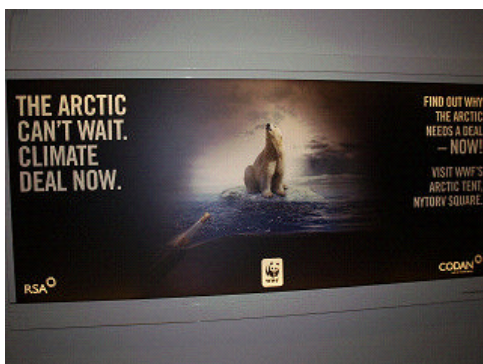
http://regserver.unfccc.int/seors/attachments/get_attachment?code=7QP9Q89KA702TMX80X41WV1HAXCCDFKB

http://regserver.unfccc.int/seors/attachments/get_attachment?code=OPMVD7ZCUJMZBLF2T6M9GCEH9MUZI549

なお、今回の視察では特に気候ネットワーク事務局長の田浦健朗氏にお世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

◆1日目（12月9日）

移動日。昼過ぎに成田を出発し、ヘルシンキを經由してデンマークコペンハーゲンに現地時間の夕方到着。空港内のバーガーキングで食事をしたが、日本の物価の倍近い一食 1100 円ほどもして、デンマークの物価の高さの洗礼を受ける。ホテル到着後、市内を散策。デンマークの歴史を感じさせる石造りの建築に目を奪われ、自転車の多さに驚く。



WWF の広告@コペンハーゲン空港



Hopenhagen Live 会場

◆2日目（12月10日）

朝のホテルの朝食のときに、国立環境研の西岡先生を見かける。その後、一日 Bella Center で会議等視察。会議場への登録にややてこずるも、問題なく入場許可証を入手。会場内ではトラベルパスが配布されており、これがあるとコペンハーゲン内の公共交通は全てタダになる。もっとも、デンマークの電車の駅にはもともと改札というものがないのだが（たまに抜き打ちで駅員に切符を尋ねられて、持っていないと高い罰金を払わなくてはならないのでみんな切符を買うらしい）。



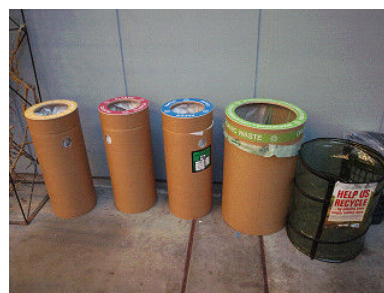
会場はただっ広いがどこも人で一杯



NGO 関係者などが利用するコンピュータセンター

会場内は、気候変動の会議だけあり、食事にはオーガニック・フェアトレードなどが多く使われ、ゴミの分別もよく配慮されていた。ちなみにプレナリー（総会）会場の照明にはLEDが使われ、80~90%の省エネになっている。

ゴミの分別の様子



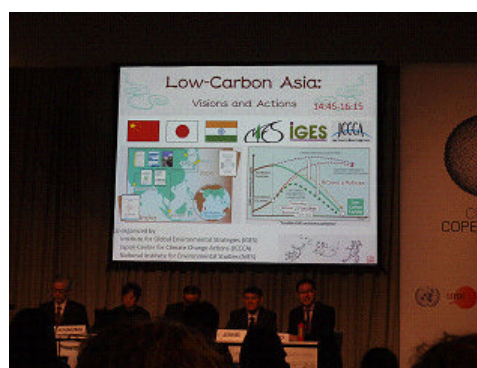
会場内には国連機関、各国の研究所、大学、NGOなど様々な団体がブースを出し、各自の取り組みについての熱心に説明していた。



この日は、まず国際的な NGO のネットワーク CAN (Climate Action Network) International の戦略会議の様子を見学した後、UNEP による「One UN: Partnering with countries to build capacity and readiness for dealing with climate change」や、国立環境研究所 (NIES)・地球環境戦略研究機関 (IGES)・全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA)による「Low Carbon Asia: Visions and Actions」などのサイドイベントを聞いた。



UNEP サイドイベントの様子



国環研の発表の様子

また、途中に気候ネットワーク関係者向けのブリーフィングがあり、東京事務所長の平田仁子氏（インターン中、大変お世話になった）から、この COP15 で初めて政府交渉団へ NGO が参加したこと意義などについて話を聞いた（平田氏は 2 人の NGO 代表者の一人、[参考ニュース](#)）。また、京都などから来ている他の学生達と短い交流をした。（彼らの活動の様子は[こちら](#)）

ちなみに、この日（会議 4 日目）は "Youth and Future Generations Day" となっており、ユースの活動が目立った。Japan Times（12 月 22 日第二面）のによれば、1000 人以上のユースが 100 カ国以上から集まって YOUNGO というユースの団体を形成し、活動していたそうだ。（右写真は鳩山首相にさらなる資金の提供を求めるエイリアンを演じるユースの様子）



毎日の夕方 6 時からは世界の気候変動関連の NGO のネットワーク CAN による、化石賞（Fossil of the day）の発表がある。化石賞とは、その日に最も交渉に後ろ向きの発言をした国に送られる不名誉な賞である。この日は、EU の中期削減目標の引き上げに後ろ向きの発言をしたポーランドが化石賞 1 位を受賞した。



この日の最後は、NGO の記者ブリーフィングを聞いた。交渉の流れをニュースで伝えるときに、NGO の説明は 1 つの重要な視点になることを改めて確認した。その後、NGO・記者の方々のディナーに帯同。



◆ 3 日目（12 月 11 日）

この日は朝に、今年の 7 月からスウェーデン留学中の栗山君（同じ阿部研究室在籍）と再会し、1 日一緒に会議を視察。栗山君は、1 日しか滞在できないということで夕方 2 時間ほど、積もる話をした。別れ際にホテルのカード（キー）がなくなるというアクシデントが発生するも、ホテルのスタッフは何もなかったように新しいキーを支給してくれた。チェックインのときも名前を聞くだけでキーをくれたので、かなりセキュリティーが甘い印象だが、それだけデンマークは治安がよく豊かな国だということが伝わってくる。



会議場で栗山君と



ブータンの CDM 事例紹介の様子

◆4日目（12月12日）

この日は土曜だが会議は続く。午前中は COP プレナリー（全体会合）を初めて見学。UNFCCC 事務局長のイヴォ・デブア氏と、議長のコニー・ヘデゴー氏を初めて見る。（正確にはイヴォ・デブア氏は 2005 年 10 月に東工大に講演に来たときに見ているが）。このプレナリーでは、ツバル交渉官が感動的な請願文を議長に対して読み上げ、会場のオプザーバー達から拍手が起きた。（[参照動画](#)）

また、インドの交渉官は京都会議のときに大木浩議長からもらったという酒杓を演説に登場させるなど、国際交渉の中にある人情的な一面があることは印象的であった。



COP プレナリーの様子



酒杓を掲げるインド交渉官 ([IISD HP](#) より)

そして、この日の午後は視察のハイライトの一つ、数万人規模（報道では 4～10 万人）のデモ行進があった。デンマーク国会議事堂から会議場のベラ・センターまでの 6km を、記録係として一緒に歩いた。デモには、世界中から民族衣装も含めて様々な衣装に身につけた人々が集まり、意味のある合意を訴えていた。日本からも「温暖化防止 COP15 ネットワーク関西」のみなさんを中心に 50 人くらいの人々が参加していた。



デモ行進の様子



関西から乗り込んできたおばちゃんたちも参加

この日の夜は、NGOの方にデンマークレストランに連れて行ってもらい、とてもおいしいサーモンとデンマークポークをいただいた。その後、NGOパーティーなるものに参加し、最後の夜を過ごす。そこで、Yale University, Yale School of Forestry & Environmental Studiesの学生2人に会う。どうやらYaleからは修士課程の学生が70人ほど来て、[ブログ](#)を書いたり、途上国の交渉の手伝いをしたりしているのだそうだ。

◆5日目（12月13日）

滞在4日で、お土産を買う時間もあまりないまま、早々に帰路に着く。終わってみれば、この次の週からオブザーバーの会議場への入場はかなり制限されたため、会議を視察するには賢い日程だったとも言える。

以上、事実的な報告編でした。

コメント、ご質問などがあれば以下のアドレスをお願いします。

Email:machida.k.aa@m.titech.ac.jp

※詳細な感想はレポート(2)感想編をご覧ください。